

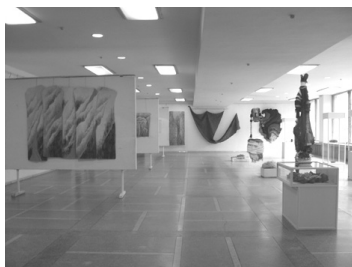
シルクロード・プロジェクト2007 —芸術・生活文化を通しての交流—の旅を終えて



発足地 奈良、東大寺前の出発時



終着地 ローマ、コロッセオ前



キルギス国立美術館 現代テキスタイルアート展



中国・鳴沙山を行く



中国、ウイグルのダンス風景

2007年は中国との国交正常化35周年、キルギス他、中央アジア諸国との国交樹立15周年の節目の年でもありました。2008年は中国でのオリンピックが開催され、2010年には続いて上海万博も準備されています。中東での争いごともさることながらトルコ、インドをはじめ台頭する東南アジア、中央アジア諸国の動向も活発であります。今、世界の関心がアジアに向けられているのを感じますが、同じアジア圏内に位置する日本の私達は本当にアジアを理解し把握しているのでしょうか？隣国の韓国や中国でさえ本当に理解しているとは云い難いでしょう。「アジアと西欧の境はどこですか？」「アジアには何ヶ国位の国がありますか？」「中央アジアと呼ばれる国の名を挙げてみて下さい」こんな質問をしてすぐ答えられる人は少ないと思います。云い換えればそれ程アジアを知らないのです。アジアを知ることは日本を見直すことにもなり、改めて世界を見直すことにもなるのではないのでしょうか。

このような思いの中で「シルクロード・プロジェクト2007—芸術・生活文化を通しての交流—」は実行されました。戦後の平和の代償として安住ボケした日本人が安易な錯覚をしている間に時代の変化は加速し、日本の存在が後退しはじめているのに気付かない人も多いようです。ビジネスも相互理解と共存がなければ行き詰りとなるでしょう。政治に国境は付きものですが、芸術や文化には国境はありません。人と人とのヒューマンな触れ合いが本当の相互理解を育て、明日の共栄につながるのではないのでしょうか。その道のりは遠いかも知れませんがそれぞれ可能な立場で実行して行かねばと思います。シルクロードの東の終着地といわれる奈良を発足地と決め2007年6月28日、東大寺大仏殿での法要の後、翌日6月29日神戸港を出航旅立ちました。船が静かに動き出し胸に沁み入るような船笛の響く中、手を振る見送りの人達が遠のくのを目で追いながら「無理だよ」「無謀な計画だよ」といわれ続けた日々を思い出しながらとうとう旅立ちの日を迎えることが出来た喜びと、旅に向う希望と不安が一挙に吹き出し、しばらくは茫然とデッキに立ちつくしていました。

それから90日西の終着地ローマに至る約25000キロに及ぶ地上の旅の日々は決して平坦なものではありませんでしたが、何とか各地での交流プログラムをこなし、予定の交流を実行し成果をあげることが出来たことは各大使館、地元関係者をはじめこのプロジェクトを支援、協力して下さった方々があつたればこそと感謝の念でいっぱいです。参加隊員は推薦と公募による女性のみ、部分参加を含めて総勢18人。私を最年長に次が65才、そして50代、40代、30代、20代とそれぞれの年齢に分散、最年少は20才の大学在籍の3年生でした。18人のうち12人までが20～30才代の若い人であったことは次の時代の担手として夢を託したい私にとって大変嬉しいことでした。